

## 原発事故と食の安全

原発過酷事故から4ヶ月になろうとしています。収束ままならず、次々と危機的状況が明らかになっています。炉心のメルトスルーが、早くに起こっていたことも、最近になってやっと公表されました。国民のいのちとくらしを守ることが一番の仕事であるはずの政府はその義務を果たせていません。多くの国民が先行き不安の中、「原子力の平和利用」を見直し、エネルギー、生活について考え直さねばと思い始めています。

こんな時、ある健康食品会社の情報誌に驚きました。放射線被曝したほうが、免疫力が上がる為、心配ないというものでした。

66年間、被爆者医療に携わってきた肥田舜太郎医師は、人体に与える被曝の影響について、どんなに微量でも、体内に入った放射性物質が、長時間放射線を出し続け、ガン、白血病、遺伝障害などを引き起こし、しかも、胎児・乳児など、低年齢ほど被害を受けやすいと、内部被曝の重大さを強調しています。米国では原発の周辺は他の地域と比べて、5~6倍乳がん発症が多いというデータもあります。

最近の診療の中で気になっている事があります。

5月頃から、魚のみアレルギーの乳幼児が増えているように思うのです。又、今まで安全だったオーガニックの野菜や野菜ジュースにアレルギーを起こすようになった人や、甲状腺が一過性に腫れた人が何人かいました。アレルギーや化学物質過敏症のある人は、放射線にも敏感に反応するのかも知れません。

今、風評被害をなくせと言われていますが、食の安全に対する不安や関心の高さは、健康を守る立場からは当然のことです。規制値以下でも、胎児・子供・アレルギー・化学物質過敏症の人には危険であり、当面は大丈夫と言われても、将来はどうか心配するのは当然です。0.5%程度発がんのリスクが上昇するだけと言っても、10万人中500人です。これは無視できる数字ではないと思うのです。胎児、子供には、規制値以下でも汚染されたものはダメだと思います。野菜などは産地偽装がなければ判断しやすいですが、魚は動くので見極めが難しいです。日本海と九州産、北海道の北方は、まだ安全ではないかと思いますが、回遊魚・大型魚は、今後高濃度汚染が予想されます。あらゆる食材について汚染の実態を検査し、隠さないで公表することが大切だと思います。

私たちは、食の安全と、健康被害の実態について、今まで以上に、重視する必要があると思います。

鈴木 富美